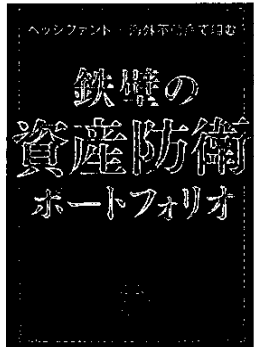


## ヘッジファンド×海外不動産で組む 鉄壁の資産防衛ポートフォリオ



2013年の大幅上昇以降、激しく乱高下する平均株価。現金のまま保有していても、インフレ政策が実現すればその価値は目減りするばかり。今年に入ってから金融市場は、資産を安定的に運用していくには難しい環境にある。では、多額の資産をどう扱うべきなのか。そのひとつの解答を資産運用のプロがまとめたのが本書だ。

特筆すべきは、資産ポートフォリオのサンプルを多数掲載している点だ。投資家の属性や保有資産額によって、組み立てるポートフォリオは千差万別。さらに、将来の日本経済のシナリオ予測に基づいたプロの“お手本”も知ることができ、理論だけにとどまらない実践的な一冊となっている。

運用の中心になるヘッジファンドは、極めてハイリスクなイメージもある。しかし本書を読めば、それがまったくの誤解であることにまず気づかされる。ひとくちにヘッジファンドといっても投資の戦略は多種多様で、「売り」と「買い」を組み合わせることで相場の変動に左右されない安定運用も可能なのである。それに対して国内投資信託などが抱える構造的なデメリットにも踏み込んでおり、先が読めない今だからこそヘッジファンドが買い時であるという著者の主張には説得力が感じられる。

また海外不動産への投資、インフレなどのいわゆるジャパンリスクを回避する手段として極めて有用で、大きなタックスメリットが得られる点でも魅力がある。

山ほど儲けるよりも着実に資産を築きたい。そんな投資家・資産家におすすめの一冊。

(クリエイティブ局・中山景)

植頭隆道(著) / 幻冬舎メディアコンサルティング / ¥1400+税

